

まちづくり協議会を盛り上げる!



富士南地区地区担当班長
鈴木弘之さん(上下水道営業課統括主幹)

班長さんに聞きました!

富士南地区の地区担当班は、市役所の事務職以外に消防や保育士、保健師、病院など、さまざまな職種の職員54名で構成され、職域を超えた交流と地区活動への参加を中心に活動しています。

富士南地区のメインイベントの一つである1月に行われる「三世代交流大集会」では、毎年、綿菓子の無料配布やらくがきせんべいなどの模擬店を出店し、準備から設営、また、当日の会場で、地区の皆さんとの交流を楽しみながらおまつりを盛り上げています。

「地区の皆さんに地区担当班をもっと認知していただけるよう、“張り切って、かつ、気を配って”活動していこうと地区担当班のメンバーに声をかけています。」

市職員に配布されている「まちづくりハンドブック」▶

まちづくり活動についての解説や各地区の事例のほか、まちづくり協議会についても紹介されています。

富士南地区



つながりづくりの達人

鈴木さん自身は富士南地区生涯学習推進会の総務部長としての顔も持っています。10年ほど前から活動に加わり、青少年育成部などを担当されてきました。

「個人の事情や希望を受け入れてもらえ、できる時にできることをさせてもらっています。活動は、自分の心と体の健康づくりのためです。」と謙遜気味に語りますが、鈴木さんは周囲も認める「つながり」づくりの達人。公私ともに多くの「集まり」を作ってきました。

●年ほど前には、地元で育ち暮らす4人の仲間と、地区外から移り住んできた方々と「34(さんし)会」という集まりをつくり、まつりの模擬店などの活動を楽しんできました。この会をきっかけに地区活動デビューを果たした仲間もあり、現在は35名のサークルになっています。

「つながると一人の負担も減るし、フォローもしあえる。集まる=つながる=ハッピーになる。つなげることが自分の役割だと思っています。」

【発行】平成31年3月
【発行者】富士市市民部まちづくり課
富士市永田町1丁目100番地(富士市役所3階)
☎(0545)55-2887
🌐http://www.city.fuji.shizuoka.jp/



次号も
お楽しみに♪



2019
March



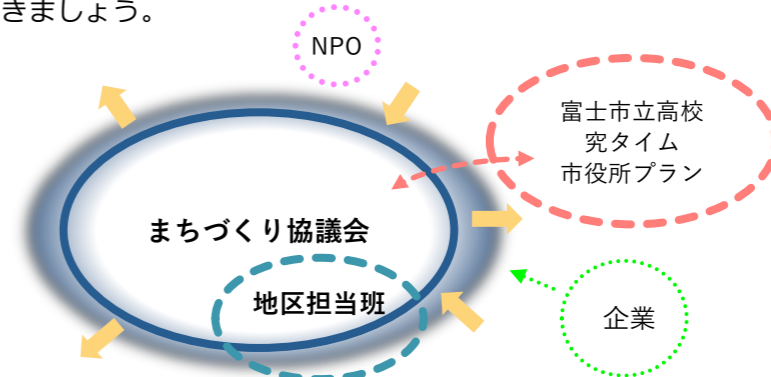
チカラコブタクん

まちづくりの輪
が広がるコブ!

■地域の力こぶ増進計画・ニュースレター■

地区まちづくりの輪!

まちづくり協議会には、地区で活動するさまざまな組織がネットワークし、活動に参画しています。今回は、その周りで応援する人たち、陰日向で支える人たちをご紹介します。地区にはそれ以外にも企業、市民グループやNPOなど、地区活動や「地区」に関心を寄せている人たちがいます。ぜひ、出会いの機会を作り、緩やかに輪を広げ、互いの特性を生かして地区の課題に的確に対応できるしなやかなまちづくりを進めていきましょう。



地区担当班

地区担当班とは、富士市内に在住する市職員による地域貢献活動です。昭和59年度から行われている富士市独自の取り組みで、富士市内全ての地区に組織されています。それぞれの地区担当班は、まちづくり協議会の会議に参加したり、地区行事の運営、地区懇談会への協力など、地区ごとに工夫しながら活動しています。

また、毎年4月に26地区の地区担当班長が集まる研修会を開催し、各地区の活動状況の共有や意見交換を行っています。

富士市役所の高校生職員!?

富士市立高校究タイムとは、富士市立高校1年生の前期から3年生の前期まで通して行われている独自の課題解決型学習プログラムで、そのうち「市役所プラン」は、2年生の前期に行われており、富士市の特性を分析し、課題を見つけ、課題解決案を市に提案します。富士市役所の高校生職員として、辞令も交付されるそうです。スタートして8年になりますが、4年前から現在のような、地区への提案スタイルになりました。毎年、市内10地区を対象に、1地区につき6つのグループを編成して取り組んでいます。

特集◆まちづくり協議会の周囲の人々



富士市立高校 市役所プラン

岩松北地区

漬けづくりと販売場所の設置も、まちづくり協議会で究タイム窓口を務めた入月昭夫さんや他の協議会メンバーの手助けをもらいながら生徒たちで行いました。また、「スタンプラリー」も渡邊凌椰さんら生徒が運営しました。実相寺から芝生広場までのコースの4か所のポイントでスタンプを押し、ゴールすると景品とポップコーンがもらえます。28人の子どもとその保護者が参加しました。

「スタンプがかわいい!」「楽しかった」など反応も上々で、高校生らしいこだわりを生かした企画が、記念すべき20回目の梅まつりを盛り上げました。

梅茶漬けの実現には材料調達、調理方法、販売許可など、さまざまな課題がありましたが、まちづくり協議会だけでなく、学校法人旭学園 富士調理技術専門学校調理学校、(株)小林茶園の指導や

協力をいただくことで、なんとか商品化にこぎつけることができました。

1食200円で販売しましたが、始めはなかなか売れず、会場内に出向いて積極的にアピールし始めると多くの方がテントを訪れてくれるようになりました。85食を販売したところでご飯が無くなってしまい、あえなく終了。目標の100食にはあと一步届きませんでした。食べた人からは、「おいしい」「さらさらしていて食べやすい」「出汁がきいている」などの声が聞かれました。また、「インスタ映えするように、菜の花を添えたらいい」などのアイデアももらい、生徒の提案で終わることなく、まちづくり協議会や地区の方々と協力して販売まで行ったことで、新たな名物づくりへのヒントを得ることができました。

◀まつりの後に、「こうめバスで行く四季折々の歴史ツアー」も生徒が提案。チラシ等のデザインまで協力しました。活動がつながっています。

岩松北地区への6つの提案のうち、地区の特産の梅を利用した「梅茶漬け」と「スタンプラリー」が、2月24日(日)に開催された第20回記念梅まつりで実現しました。

当日は、学期末の試験を控えていたにも関わらず、提案したメンバーだけでなく美術部やサッカー部も協力し17人の生徒たちが参加しました。販売用の梅茶



丘地区

丘地区を担当した6班のうち、3組のメンバー4名は、5月のフィールドワークの際、地区の方々からのお話の中で、地区に街灯が少なく暗い道が多いこと、治安に不安を感じる住民がいることに着目しました。

そこで、通学路にライトを設置し、防犯対策にもつなげるといった提案を考えました。

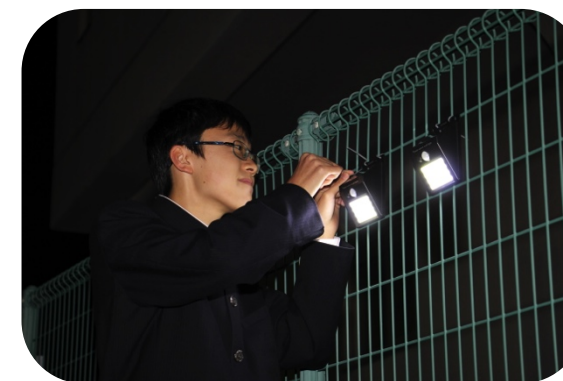
また、ライトの購入資金を生み出し、かつ地域の行事を盛り上げる方法として、地区イベントへの出店を考え、防犯対策とイベントの活性化という2つの企画を合わせて提案をまとめました。8月にイベント出店について地区と相談した結果、小学校の文化祭に模擬店を行うことになりました。テントを一張借り、らくがきせんべいを販売するとともに、募金箱を設置しました。地区の方から、「もっと目立つようにしたらいいよ」とのアドバイスを受け、急遽ポスターを貼り、会場内をマイクを持って募金を呼びかけました。その結果、模擬店の収益と募金を合わせて17,000円を集めることができました。地区に設置するライトは、先生方にも相談しながら、電源が不要で扱いやすいソーラータイプを選び、20個購入しました。



リーダーの斎藤しずくさんは「提案の実現を誰かに委ねるのではなく、自分たちで結果まで関わりたい」と提案の趣旨を話してくれました。地区役員のみなさんは、「8月に相談に来て、9月に提案をもらい、文化祭に出店し、11月にはライトを寄贈していただき設置ができた。そのスピード感に驚かされた。」と話します。また、「文化祭に活気が出たし、自分たちも元気がもらえた。」と高校生のパワーを実感されています。さらに、ソーラーというアイデアにも感心至極。設置されたソーラーライトを見て、自宅に設置する住民の方もいたそうです。



丘地区まちづくり協議会会長の遠藤清嗣さんは「今回の活動を通じて若い人から多くの刺激をもらった。防犯は、パトロールだけでは十分ではないし、防犯灯の増設には時間もお金も必要になる。これからは地区でこの取り組みを継続発展させていく方法を考えたい。」と語っています。今回の提案は、地区の新たな活動づくりへの気づきになったようです。



市役所プラン 提案ができるまで

対象 10地区
1地区につき6グループ
(1グループ4人程度)

4月10日(火)
●オリエンテーション
まちづくり課講義

5月11日(金)
●フィールドワーク
地区まちづくりセンター訪問
地区の魅力、課題を調査

6月22日(金)
●中間発表会
課題の提示

7月末~8月中旬
●夏休み研究
各地区班別独自調査

9月27日(木)
●発表会
課題解決プランの提案



最終発表会 当日の様子

